

第1回小松市未来型図書館等複合施設  
基本計画策定アドバイザーボード

# 小松市未来型図書館等複合施設基本計画の策定について

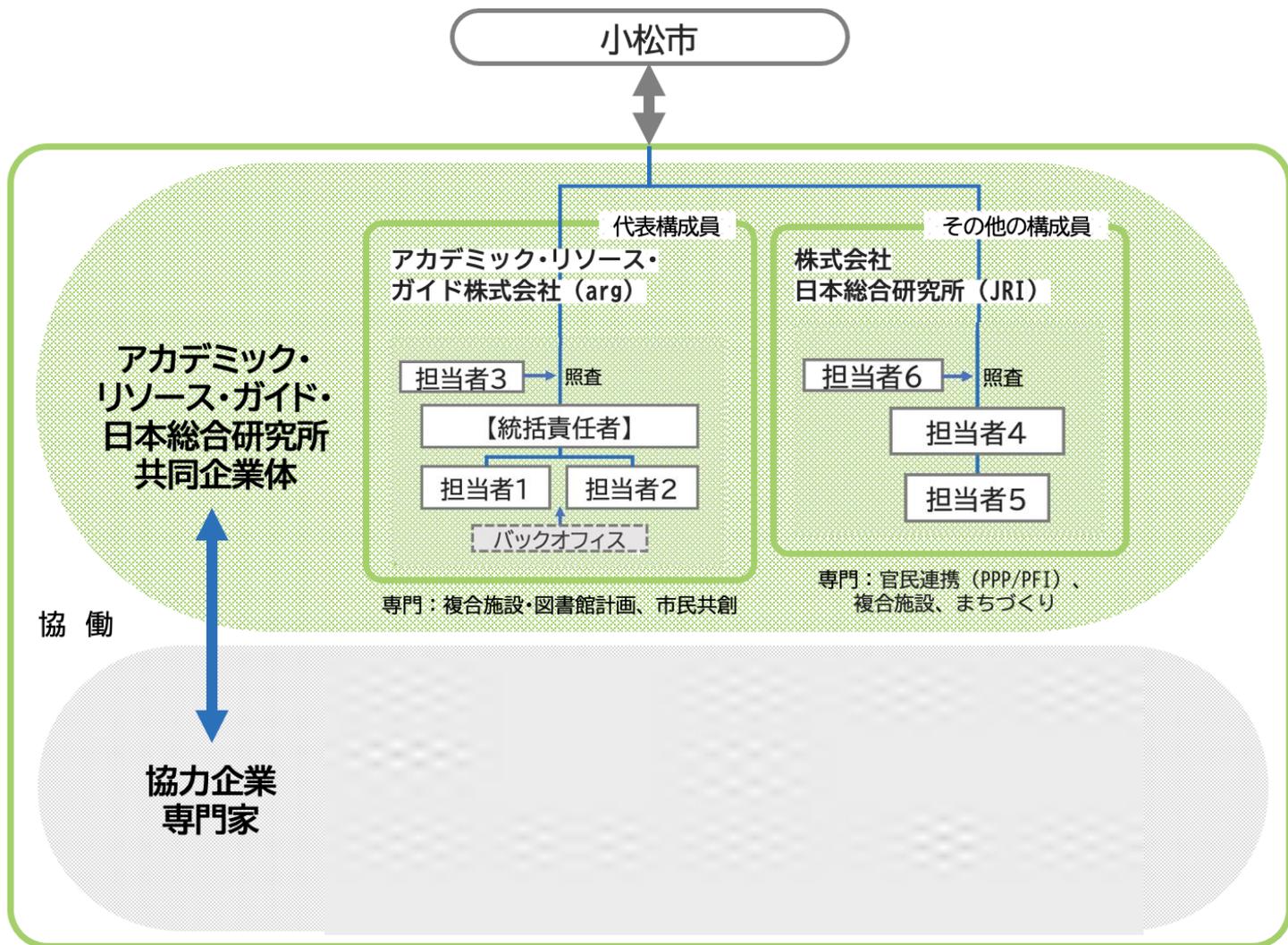
---

2024年6月27日（木）





本業務に関わる、「官民連携事業調査に関する実績」、「共創のプラットフォームの企画・運営に関する業務の実績」、「公共図書館を含む複合機能を有する公共施設の整備に関する実績」の3種の実績を豊富に有する構成員・協力事業者により体制を組み、業務にあたります。



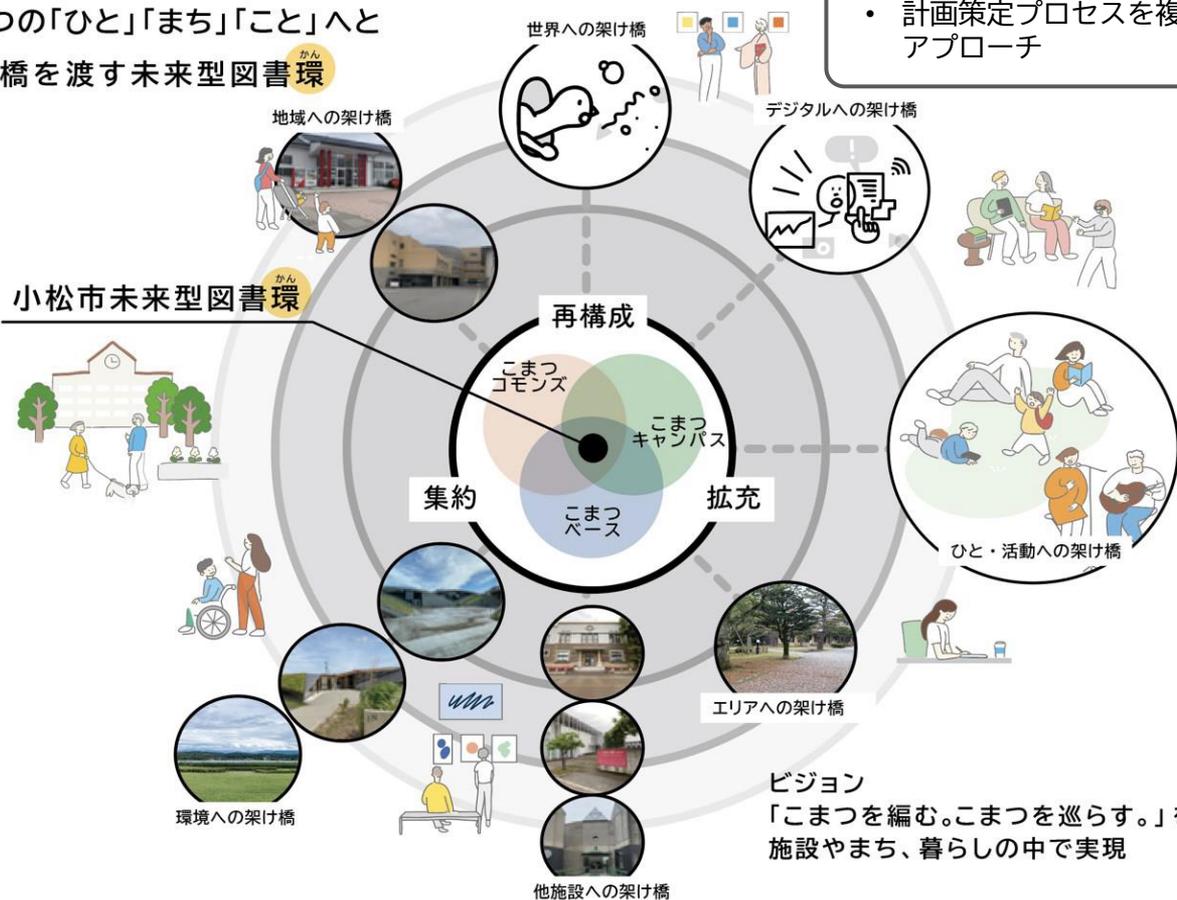


業務全体における「基本的な考え方・重点目標」を、「まちづくり、未来づくりという観点からの、基本計画づくり」と掲げます。「未来型図書館」の館を環境の環とし、単なる施設づくりではなく、まちづくりであることをより意識し、施設をベースにまちや地域に広がる複合施設の創造に取り組みます。

- まちづくりとしての「未来型図書館=未来型図書環」づくりという観点
- 市民中心デザイン（シチズンセンタード・デザイン）による共創サイクルの推進
- 計画策定プロセスを複合施設のシミュレーションと位置づけるアプローチ

こまつの「ひと」「まち」「こと」へと

架け橋を渡す未来型図書環



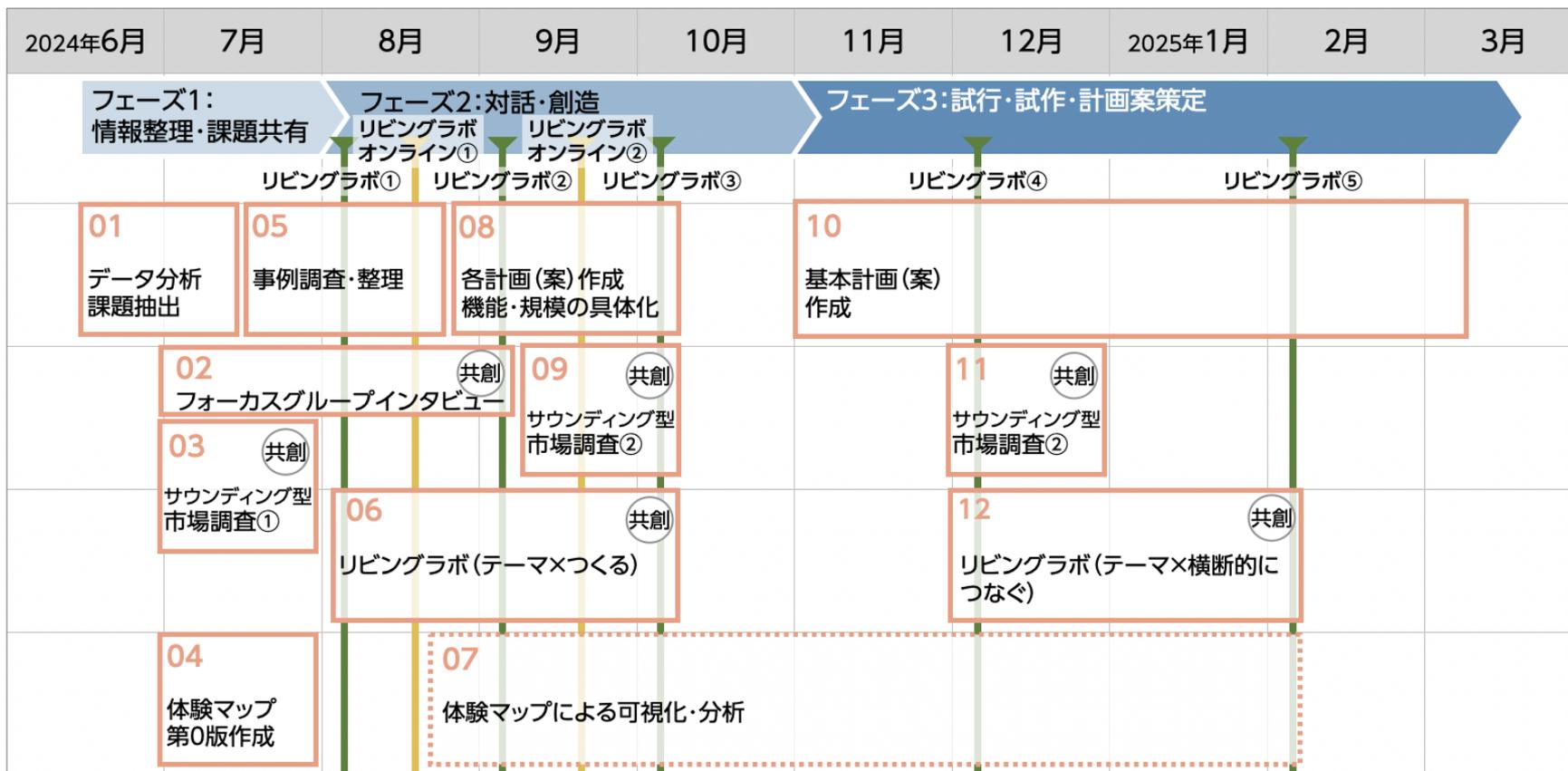
ビジョン  
「こまつを編む。こまつを巡らす。」を  
施設やまち、暮らしの中で実現



業務においては、これまでの小松市における積み重ねと今年度の新たな取り組みを接続し、具体的な機能・規模の検討を進めます。

事業においては、基本構想のビジョン、「こまつを編む。こまつを巡らす。」の実現を目指します。複合施設から「ひと」「まち」「こと」へとつながり、地域に広がり、未来につながる〈融合〉を生み出します。

### 複合施設の機能・規模の具体化検討のプロセス



注) 企画提案書「業務の実施方針」を基に、小松市・JVの会議をふまえて更新したもの

## 基本構想及び事業方針に基づく 複合施設の機能・規模の検討

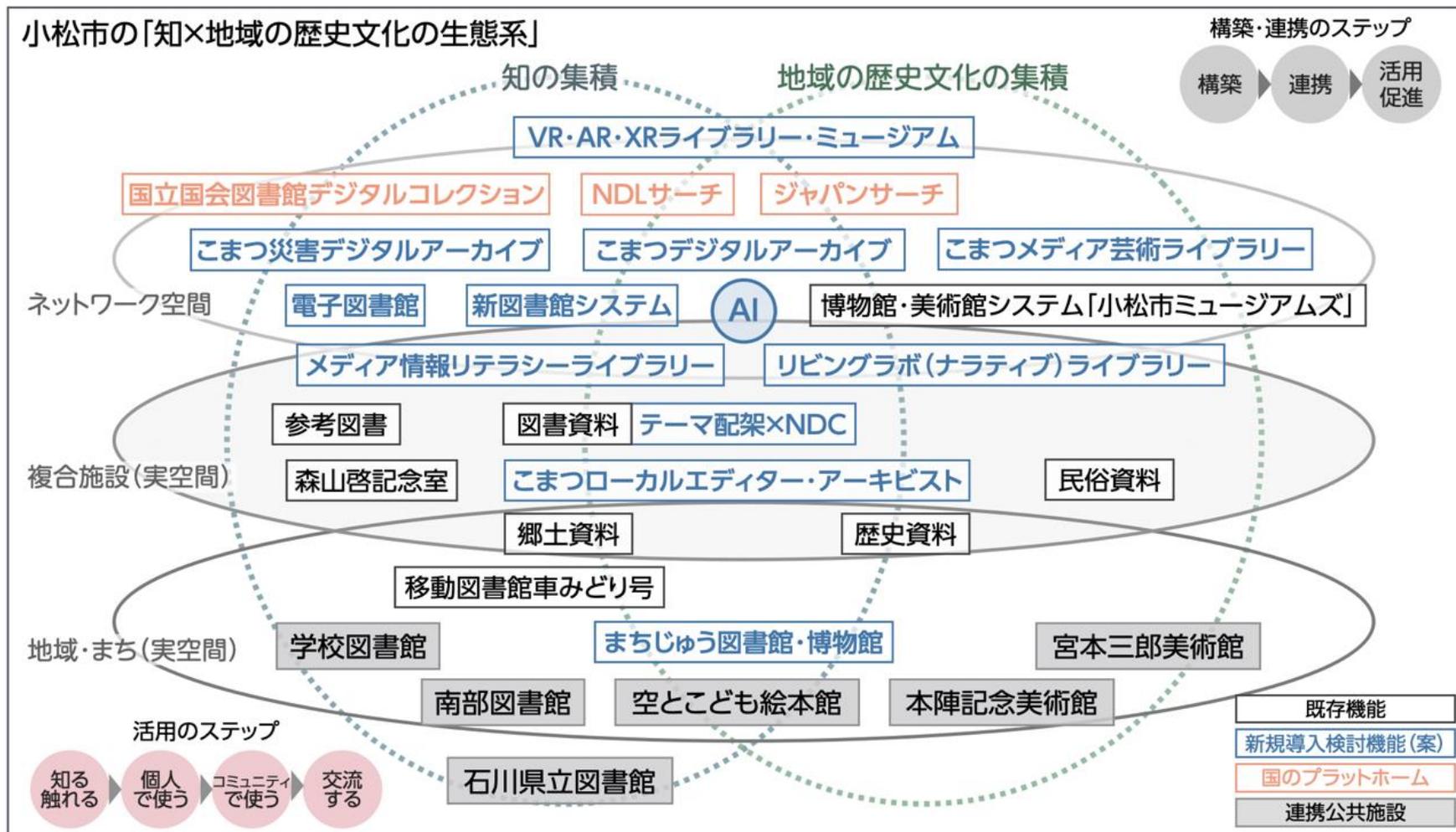
「報告書」におけるアンケート調査データ、「基本構想」「事業方針」における市民協働を含む多様な調査データをあらためて整理したうえで、本事業の取り組みとして、インタビューやサウンディング調査、リビングラボ(共創)を通じての「体験マップ」の活用、試行・試作(プロトタイピング)など、つながりと包括性を重視した検討プロセスを実施。

- ① 蓄積の分析:既存データ分析・課題抽出、事例調査・整理(01、05※p.4数字、以下同)
- ② 多様な声の抽出:フォーカスグループインタビュー、サウンディング(02、03、09、11)
- ③ デザインツールの導入・活用:「体験マップ」等を活用した発想・創造(04、07)
- ④ リビングラボにおけるトライ&エラーの実践:試行・試作(06、12)
- ⑤ 定量/定性を組み合わせた総合的な分析・検討:機能・規模の具体化(08、10)

## 「知の集積」「地域の歴史文化の集積・編集」機能 の方針作成

複合施設において密接に関連している「知の集積」「地域の歴史文化の集積・編集」機能の融合について一体的に調査・検討。2つの機能が複合施設の根幹をなし、小松市の「知×地域の歴史文化の生態系」としての情報環境のデザインを検討。

- ① 図書館・博物館の現状分析と既存機能の活用、新規機能の導入の検討
- ② 国のプラットフォームについての学びと、活用検討
- ③ 実空間とネットワーク空間の融合によるオープンな情報環境の創造
- ④ 資料、展示の体験・活用におけるアクセシビリティの向上
- ⑤ 情報環境デザイン、資料・展示キュレーションの専門家による分析・検討



「知×地域の歴史文化の生態系」実空間とネットワーク空間が融合した情報環境の構成イメージ  
〔(2)「知の集積」「地域の歴史文化の集積・編集」機能の方針作成〕

## 民間施設の機能の検討

「パブリックマインド」「地域の価値創造」「実現可能性」の3つの観点から、まちをつくる、未来をつくる複合施設に適した民間施設の機能を検討。

民間施設の機能を検討するうえでも共創がベースとなる。リビングラボとサウンディング型市場調査を組み合わせたサービスデザインの考え方を導入し、検討を深化させる。

- ① 定量×定性分析による市民のニーズの掘り起こし
- ② サウンディング型市場調査による事業者との創造的な対話の実施
- ③ 公共／民間の区分を超えた、小松市らしい「小さなPPP」の創出

### 民間機能の事例

#### カフェ

サンドイッチとコーヒーampere荻窪  
杉並区立中央図書館

#### コワーキングスペース

SHARE LOUNGE 多賀城  
多賀城市立図書館

#### 書店

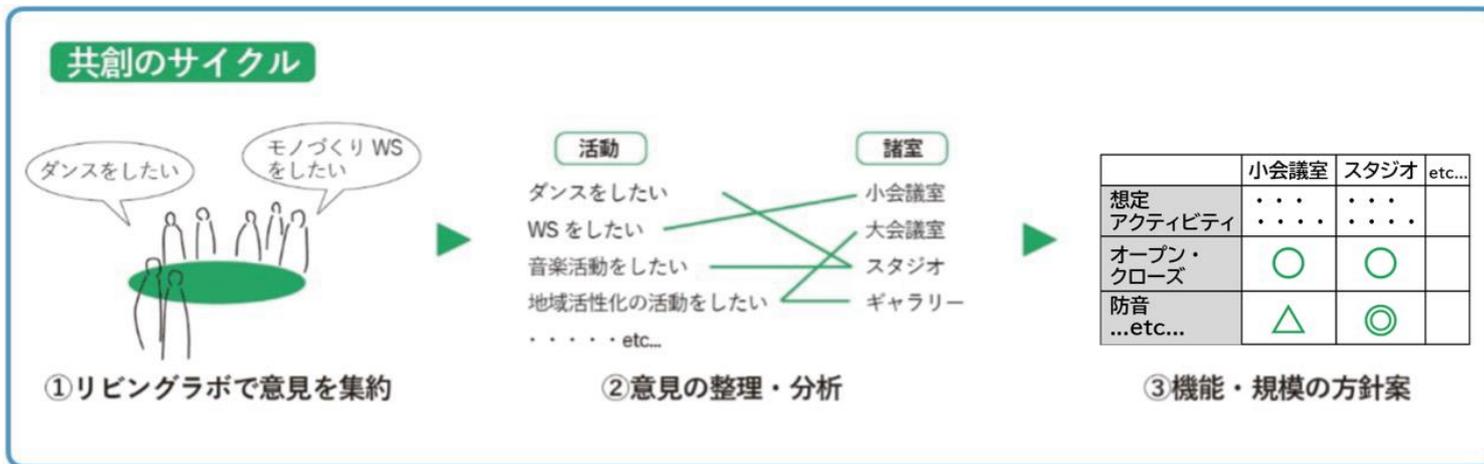
敦賀市知育・啓発施設  
「ちえなみき」

#### マルシェ・産地直送

紫波マルシェ  
オガールプラザ(紫波町図書館同施設)



未来型図書館として利用者の「やりたい」を実現できる施設とします。「基本構想」・「事業方針」で検討されてきた諸室をベースに、リビングラボを通し利用者が行いたい活動を整理し、整備計画案を複数案作成します。リビングラボの対話等を通じ、それぞれの活動の連携を生み出す「共創」のサイクルを生み出します。



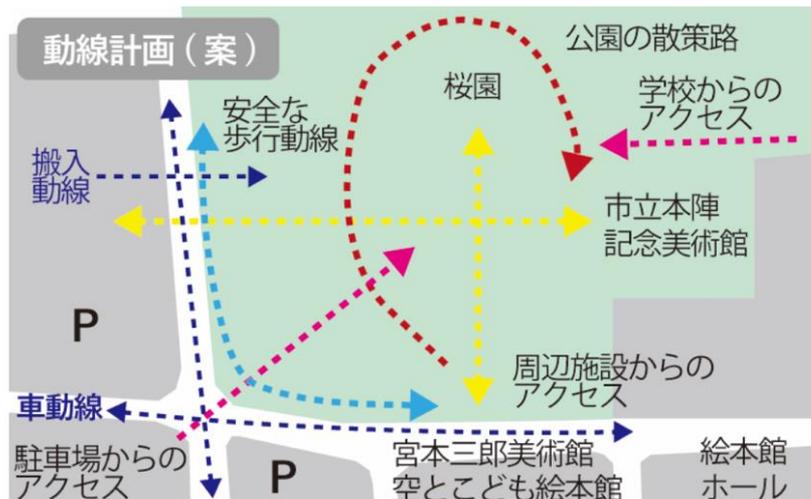
	想定 アクティビティ	規模	オープン・ クローズ	防音	遮光	仕上げ	備品	フロア	・・・
小会議室	打合せ、・・・	60㎡	クローズ	-	-	吸音性のあるもの	-	1F	
大会議室	講演会、・・・	200㎡	クローズ	防音	遮光	吸音性のあるもの	プロジェクター、マイク	3F	
リビングラボ	WS、・・・	100㎡	オープン	-	-	ハードな使い方ができるもの	ホワイトボード	2F	
多目的ホール	発表会、・・・	200㎡	クローズ	防音	遮光	ハードな使い方ができるもの	音響設備	1F	
音楽 スタジオ	演奏練習、・・・	100㎡	クローズ	防音	-	吸音性があるもの	音響設備	1F	
市民 ギャラリー	作品展示、・・・	300㎡	オープン	-	-	内外連続的なもの	展示台	1F	

etc...

ハードとソフトを融合した整備計画の実施

同種複合施設の設計実績を有す設計事業者の協力のもと与件整理を行い、3つのコンセプトを実現できる施設計画案を複数案作成しながら整備計画を整理。

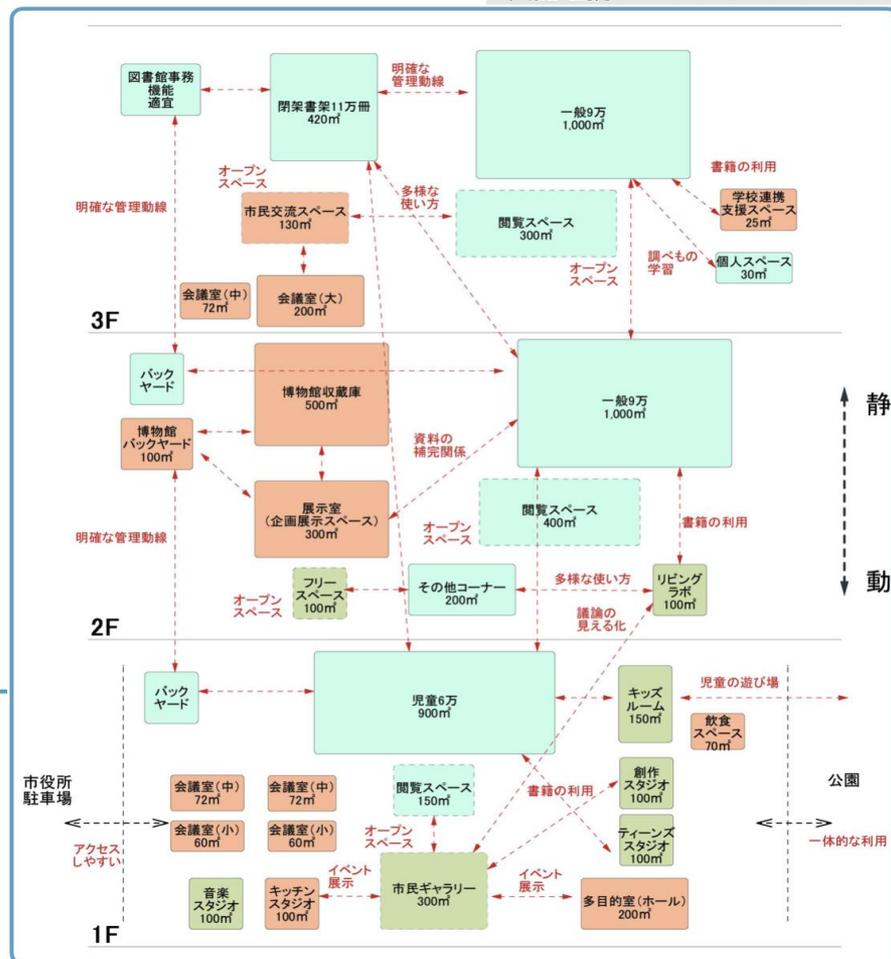
- ① こまつの「ひと」「まち」「こと」へと架け橋を渡す整備計画
- ② 「まちなかに文化が花咲く安らぎ空間」を実現する配置計画
- ③ 「さまざまな活動や出会い」が生まれる動線計画
- ④ 「知る」「学ぶ」「交流する」ことができる施設計画



計画案例

- 回遊性をつくる案
- 公園へアクセスしやすい案
- 都市軸につながる案
- 周辺と関係しやすい案
- etc...

機能連携ダイアグラムイメージ





市民が自らの手でまちを編み上げ循環させていく、まちづくりの架け橋としての未来型図書館を実現するためには、整備段階から供用開始後も継続的に多様な人が関わり続ける施設である必要があります。そのために、まずは市民中心デザイン（シチズンセンタード・デザイン）によって行政、市民、整備支援事業者含めこの事業に関わる多様な人たちで“ともにつくる”管理運営・サービス計画づくりに取り組んでいきます。

管理運営・サービス計画の想定項目

1 はじめに（計画の目的・位置づけ）

2 運営方針

3 施設体験

- （例）リビングラボで描かれた体験
- ・ 外へひらく架け橋としての未来型図書館
  - ・ デジタル（情報空間）とアナログ（実空間）の融合
  - ・ プログラムとプロジェクト
  - ・ 学校図書館との連携

- ・ 運営・市民（利用者）の共通言語での記述
- ・ 更新し続ける計画書
- ・ リビングラボを通した市民中心デザイン（シチズンセンタード・デザイン）によって具体化

4 施設機能・事業計画

- ・ 施設機能と事業
- ・ 「知の集積機能」（具体化）  
→蔵書数や本棚構成、資料収集方針
- ・ 「地域の歴史文化の集積・編集」機能の展示方針
- ・ 各機能の相乗効果を生む相互の連携方針
- ・ 民間施設の機能

5 施設運営計画

- ・ 開館時間・休館日
- ・ 利用料金
- ・ 運営体制  
→人的資源の育成と確保
- ・ 維持管理費の節減
- ・ 市民や団体等を含めた公民連携

6 サービス導入計画

- ・ 情報システム
- ・ デジタル技術の活用
- ・ 学校連携

7 指標・評価

- ・ 評価基準  
→想定利用者層・目標来館者数、他
- ・ 評価プロセス

## 各項目・内容検討方法・提案方針

管理運営・サービス計画の中核となる「施設体験」を、リビングラボでの対話や試行・試作を通した市民中心デザイン(シチズンセントード・デザイン)によって具体化を図る。  
 そこで描かれた「施設体験」を実現するためにどのような機能・サービス、体制が必要となるか、そのアクションプランとなる各検討を共創サイクルによって具体化する。

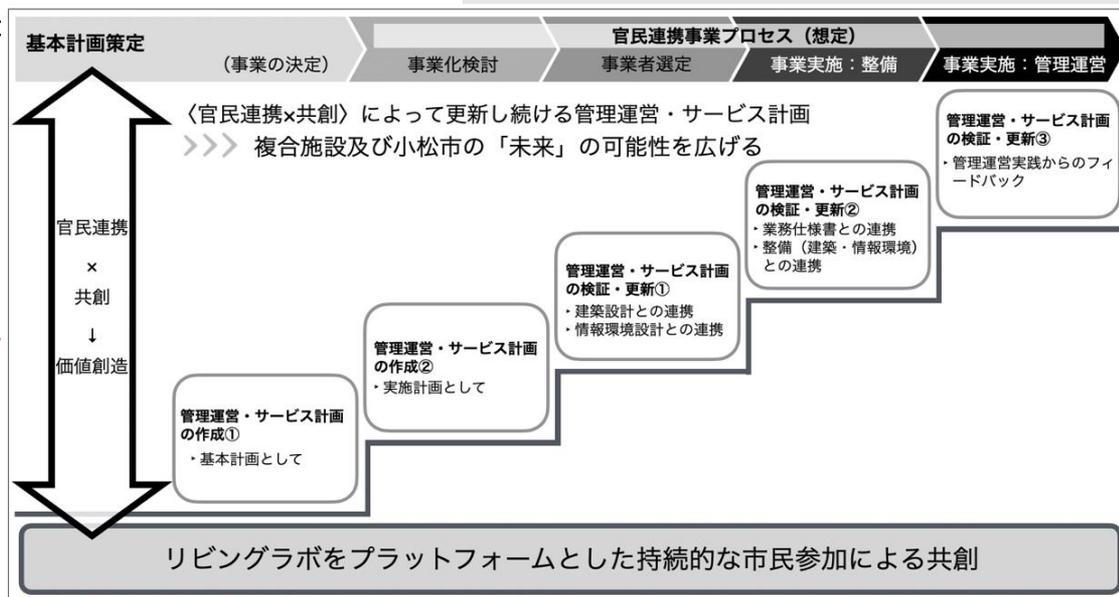
- ① 令和5年度までの検討結果の反映
- ② リサーチ(事例調査)
- ③ リビングラボでの対話、試行・試作(プロトタイプ)
- ④ アドバイザリー会議(仮称)内容や外部専門家のレクチャー内容の反映
- ⑤ 令和6年度各種検討結果の反映
- ⑥ 「未来」の可能性を広げる実現プロセスの提案

## ナラティブを共有する冊子の制作

「ともに生きてきた」と実感できるよう対話や試行・試作(プロトタイピング)、検討プロセスや内容をわかりやすく編集した冊子を制作し、読みたくなる、そして大事にしたくなる計画づくりに取り組む。

※ナラティブ: 私たち一人ひとりが主役となって語り紡ぐ物語のこと。表面的な情報だけでなく、裏にある意味や背景が共有されることで、なぜそのような方向性や結論になるのかの理解につながり、その後のよりよいコミュニケーションを築く土台となる。

更新し続ける管理運営・サービス計画と「未来」の可能性を広げる実現プロセスのイメージ





小松市都市計画マスタープランにより規定されている「都市機能誘導区域」として、新たな活気とにぎわいの創出や、市民生活の利便性向上を目指し、芦城公園及び周辺施設との関係や事業範囲、事業手法を整理し未来型図書館を中心としたマスタープランを作成します。

## にぎわいを創出する周辺整備計画と事業手法の整理

芦城公園などの周辺施設を含めたエリアマネジメントを検討。エリアマネジメントを検討するにあたり、事業手法の検討内容を踏まえながら、周辺施設との連携の実現性の比較検討を行う。

- ① 周辺施設への架け橋となる整備計画と事業手法の検討
- ② 一体的な整備計画への制約条件と事業範囲の整理
- ③ パブリックマインドを有する事業者の探索





ビジョンを共有し、共に地域に価値を創出する「価値共創型のPPP」を目指します。そのために求められる“小松市版PPP方式”の整理にあたっては、各種論点を網羅的に抽出し明確化した上で仮説を提示し、議論を踏まえて方向性を導出します。

### 事業範囲等の整理

先進事例、支援事業者ノウハウ、サウンディング調査において把握する事業者の意向等を踏まえた議論を通して、**官民の役割分担・リスク分担を整理**する。

- ① PPP導入の対象範囲の検討
- ② 運営業務の役割分担の検討
- ③ リスク分担案の検討(物価変動・光熱水費変動リスク等)
- ④ エリアマネジメント業務の検討

### 事業手法の整理・財源の検討

事業手法の整理にあたっては、下図のフローに沿って行う。



また、財政負担を軽減させることを目的に、地方債や補助金等の財源を調査し、整理する。

その上で、その整理結果を、事業費の算定及び定量的な評価(=VFMの算定)に反映する。



民間施設の機能の検討や、事業範囲の整理、事業手法の検討、周辺整備計画及び関連整備計画の双方についての複合施設整備と一体的な事業とすることの成立可能性検討に関し、サウンディング調査を実施します。調査の目的・対象・スケジュール・方法・ヒアリング事項等について整理した企画書の検討等によって効果的な調査の推進を図ります。

### 民間機能の検討

データの分析や事例調査により、事業スキームなどを検討した上で、ヒアリングにおいて、事業における「パブリックマインド」「地域の価値創造」「実現可能性」を引き出す。

### エリアマネジメント業務の検討

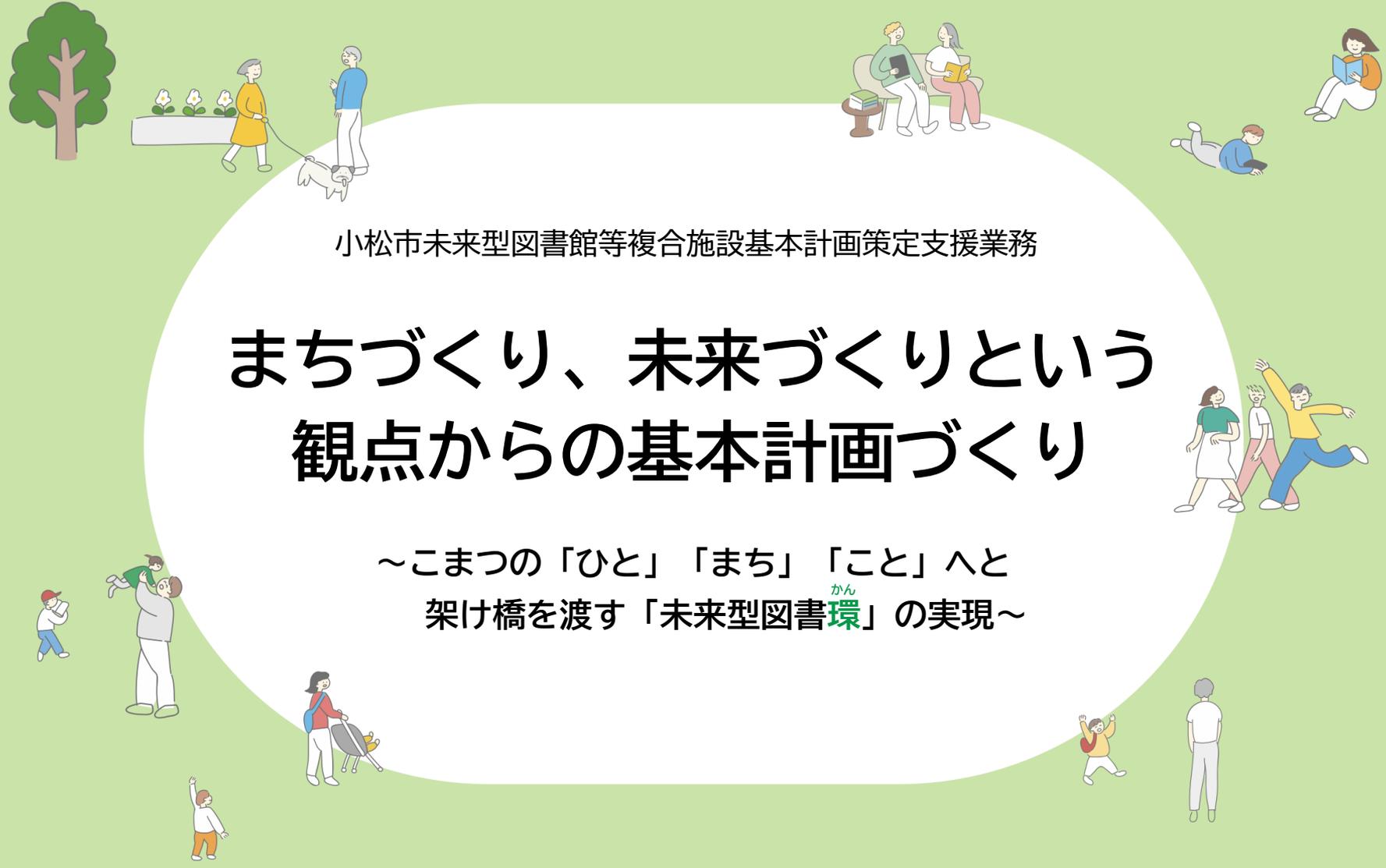
どのようなエリアマネジメント業務が具体的に想定されるかという論点について、想定される業務内容とその実現性について、サウンディング調査において確認する。

### 事業手法の検討

事業者の本音を引出し、小松市の共創パートナーとなり得る、高度なノウハウとパブリックマインドを持った創造的な事業者を探る。

### 周辺整備計画(跡地利活用)の検討

周辺整備計画及び関連整備計画の双方について、事業者の意向を把握し、複合施設整備と一体的な事業とすることの成立可能性を探る。



小松市未来型図書館等複合施設基本計画策定支援業務

# まちづくり、未来づくりという 観点からの基本計画づくり

～こまつの「ひと」「まち」「こと」へと  
架け橋を渡す「未来型図書館<sup>かん</sup>環」の実現～